

## コロナ禍2年目における学校保健活動の実践報告

—感染症対策と生徒のまなびの両立に向けて—

筑波大学附属駒場中・高等学校

保健主事/養護教諭

早貸千代子

# コロナ禍 2年目における学校保健活動の実践報告

—感染症対策と生徒のまなびの両立に向けて—

筑波大学附属駒場中・高等学校 保健主事/養護教諭  
早貸千代子

## 要約

SARS-CoV-2(以下「新型コロナウイルス」と記載)の国内外の感染拡大により、2020年度はオンライン授業の導入、時差・分散登校、学校行事は軒並み中止もしくは縮小となり、生徒の活躍の場が少ない未曾有の一年であった。2021年度は、新型コロナウイルスの感染症対策がある程度明らかになってきたこともあり、生徒の学びの保障と心身への影響等の観点から、可能な限り対面での学校教育活動を実践してきた。本稿ではコロナ禍 2年目における感染症対策と生徒の学びの両立に向けて、保健主事の立場から、学校全体の保健管理と通年行事などへの対応、及び学校三師(学校医・学校歯科医・学校薬剤師)や外部感染症専門家等と連携・協働しながら取り組んできた学校保健活動の実践について報告する。

キーワード:保健主事、学校保健活動、専門家との連携、感染症対策、生徒の学びの保障

## 1 はじめに

新型コロナウイルスは、2019年12月初旬に、中国の武漢市で第1例目の感染者が報告されてから、わずか数カ月ほどの間にパンデミックと言われる世界的な流行となった<sup>1)</sup>。2020年度は4月7日に緊急事態宣言<sup>2)</sup>が発令され、生徒は6月まで学校へ登校ができなかった。その間、教務部・生徒部をはじめ全教職員は、オンライン授業の導入、電子図書館・郵送貸出の実施<sup>3)</sup>や校内の感染症予防設備の充実<sup>4)</sup>など、感染症予防を第一に学びをなるべく止めないよう、学校教育活動の維持に尽力した。2学期は文部科学省の『学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～』を元に、手探りで感染症対策を講じつつ、時差登校をしながら文化祭の準備及び実施の実現できた。しかし2021年1月7日には2回目の緊急事態宣言が発令され、3学期はふたたび時差・分散登校で、対面とオンライン授業の併用へと変更をせざるを得なくなった。コロナ禍1年目は不確実性の連続で、生徒の活動が失われ、生徒も教職員も心身ともにストレスフルな1年となった。

2021年度は4月から、新型コロナウイルスの再拡大を警戒しつつ、コロナ禍1年目で明らかとなった基本的な感染症対策である3密(密集・密接・密閉)、特にリスクの高い場面の回避、マスクの適切な着用、手洗いの励行などを講じつつ教育活動を実施する方向で対面授業を再開した。

そこで学校全体の学校保健の管理及び調整・指導に当たる保健主事の立場から、集団感染のリスクをできるだけ低減し、日常の教育活動や健康診断、三大行事(音楽祭、体育祭、文化祭)、部活動、生徒の委員会活動などの教育活動ができるよう、学校三師(学校医・学校歯科医・学校薬剤師)や外部感染症専門家と連携・協働をし、学校保健活動の管理及び調整・指導を行ってきたので報告する。

## 2 2021年度の教育活動

### 2.1 授業形態

本校の授業形態は、中学は固定教室、高校は移動教室であったが、2020年6月以来、感染症予防の観点から、机を他者と共有しないための全学年固定教室制を原則とし、2021年度も継続した。

### 2.2 授業時間

#### 2.2.1 1学期及び2学期10月以降

8時30分始業、50分×6時間 15時終了後は速やかに下校。諸活動を希望する生徒は残留・施設使用届を出した上で17時40分活動終了、18時完全下校とした。

#### 2.2.2 2学期9月のみ

2021年7月9日に発出された緊急事態宣言が9月30日まで延長されたため、9月は時差登校となる。

10時始業、40分×6時間 15時20分終了後は速やかに下校。残留・施設使用届を出した者は16時40分活

動終了、17時完全下校とした。

### 3 感染症対策における保健管理

#### 3.1 方針

コロナ禍1年目で明らかになってきた新型コロナウイルスの基本的な感染症対策「3つの密(密閉・密集・密接)」を避ける、「人との間隔が十分とれない場合のマスクの着用」及び「手洗いなどの手指衛生」を継続しつつ、2021年度はエビデンスを元に、感染リスクはゼロにはならないことを前提に、ポイントを絞って、感染リスクを低減する対策を行うように心がけた。

#### 3.2 健康観察アプリ LEBER による健康管理

昨年に引き続き、健康観察アプリ LEBER を活用したサーベランスを行った(アプリ登録率 91.6%、それ以外は紙で記録を管理)。このアプリは登録した生徒の体温や健康状態を全教員が確認でき、記録として2週間前後のデータをPDFで出力可能である。保健主事として、毎日、全校生徒の体温や健康状態をチェックし、発熱者・風邪症状等が増えてきた等、拡大する恐れのあるクラスターの予兆を早期に検知し、早期介入や状況に応じた感染拡大予防の対策を講じることが可能となった。

#### 3.3 出席停止の基準

文部科学省の「教育活動の実施等に関する Q&A」に基づき、新型コロナウイルスの陽性者及び濃厚接触者以外にも、本人・同居する家族が発熱等の有症状がある場合には、出席停止扱いになることを周知し、無理せず登校しない(自宅療養)とし、感染機会の低減を図った。また新型コロナウイルスの感染不安を理由にした欠席に対しても出席停止扱いになることを周知徹底した。9月からは出席停止の場合でも授業を受けられるように教務部がオンライン授業の対応をしたことにより、学習の遅れを心配せずに、体調が悪いときには安心して登校を控えられる環境となった。

#### 3.4 スタンド式手指消毒薬(足踏み式)の設置

本校はもともと手洗い場が少なく、昨年、感染症対策のために足洗い場であった昇降口にシンクを設置し手洗い場とした。そのため、登校時の手洗いは屋根のない状態で、雨天時には手洗いがしにくい環境となっていた。そこで登校時の靴箱までの導線にスタンド式手指消毒薬(足踏み式)を置き、雨天時でも外から感染源を持ち込まない工夫を講じた。また、50周年記念会館や体育館入り口、図書スペースの出入り口等、全校生徒や外部来校者が出入りする

る建物には同様のスタンド式手指消毒薬を設置した。

なお、各教室や生徒が集う場には共用のものを使用する前後や昼食前後でも手指消毒ができるように、ポンプ式の手指消毒薬を2個(教室入口、教壇上)ずつ配置した。

#### 3.5 CO<sub>2</sub>濃度計の設置

昨年度は教室の換気の目安を「対角線2方向の窓を10~20cm程度開ける」としていたが、2021年4月からは、上述の目安とともに、各HR教室分のCO<sub>2</sub>濃度計を設置し、CO<sub>2</sub>濃度が1000ppm以下になるよう換気することとした。計器の管理は、当初各クラスの日直生徒が会議室にある日誌とともにHR教室に持参し、日誌の返却とともに返却・充電をする形で運用が始まった。しかし、移動時の計器の落下や、充電端子コネクタの故障が多くなり、持続可能なシステムではなかった。そこで2021年11月からは教室設置(ドッペルガンガー社CO<sub>2</sub>濃度計を採用)に変更した。また、CO<sub>2</sub>濃度が1000ppmを超えた時点でアラームが鳴るように設定し、視覚・聴覚的に換気の目安を認識しやすくする等、換気に対する意識向上を行った。

#### 3.6 昼食・黙食の徹底

昼食時は感染リスクが高まる機会であり、一定数の生徒は食事場面での感染不安を抱えている実態があった。そこで、いわゆる「早弁」を控えさせて昼食時間は4時間目終了後と固定し、前を向いて黙食することとした。教室には、担任をはじめ学年担当教員が昼食開始後20分間まで待機し、マスクを外しているときには会話をしない環境づくりを徹底した。これらの対処をしたうえでも感染不安の高い生徒に対しては別室を設けた。

#### 3.7 第二保健室の設置

昨年に引き続き、狭い保健室では発熱がある者とそうでない者を区別するゾーニングが困難であると判断し、発熱・風邪症状生徒の対応、及び保護者送迎待機場所として、保健室に比較的近い講義室を第二保健室とした。

#### 3.8 教職員対象のコロナ禍での救急救命の講習会

今年度は部活動の夏合宿前の7月19日に全教職員対象のコロナ禍における救急救命について心肺蘇生法と熱中症の対応、エピペンの練習などの体験型研修会を行う予定をしていた。しかしながら、7月9日の緊急事態宣言を受けて、夏合宿が中止となったこと(4.2.2参照)と、教職員の感染リスクを考えて、延期となった。

### 3.9 8月の医療逼迫、緊急搬送が困難時の対応

8月の都内感染者数も過去に類をみない5000人以上となり、医療現場では新型コロナウイルスに感染しても入院ができず自宅療養を強いられる患者も多くなった。さらに都内の医療現場では新型コロナウイルス以外の患者の緊急搬送の受け入れが難しい状況となった(図1)。そこで、夏休み中の部活動時に怪我や熱中症等で救急搬送の可能性のある部の活動について検討を行った。

各消防本部からの救急搬送困難事案に係る状況										
都道府県	消防本部名	搬送困難事案			うちコロナ疑い事案			うち非コロナ疑い事案		
		今回	前週	対前週	今回	前週	対前週	今回	前週	対前週
北海道	札幌市消防局	98	121	-19%	35	56	-38%	63	65	-3%
青森県	青森地区広域消防組合消防本部	0	1	皆減	0	0	-	0	1	皆減
岩手県	盛岡地区広域消防組合消防本部	7	8	-13%	0	0	-	7	8	-13%
宮城県	仙台市消防局	62	60	+3%	10	11	-9%	52	49	+6%
秋田県	秋田市消防本部	0	0	-	0	0	-	0	0	-
山形県	山形市消防本部	11	9	+22%	4	3	+33%	7	6	+17%
福島県	福島市消防本部	1	6	-83%	1	0	皆増	0	6	皆減
茨城県	水戸市消防局	14	11	+27%	8	4	+100%	6	7	-14%
栃木県	宇都宮市消防局	10	12	-17%	6	3	+100%	4	9	-56%
群馬県	前橋市消防局	0	1	皆減	0	0	-	0	1	皆減
埼玉県	さいたま市消防局	73	72	+1%	10	8	+25%	63	64	-2%
千葉県	千葉市消防局	157	115	+37%	102	72	+42%	55	43	+28%
東京都	東京消防庁	1,837	1,532	+20%	870	689	+26%	967	843	+15%
	川崎市消防局	98	84	+17%	83	75	+11%	15	9	+67%
神奈川県	横浜市消防局	354	267	+33%	281	214	+31%	73	53	+38%
	相模原市消防局	53	11	+382%	36	7	+414%	17	4	+325%

図1 救急搬送困難事案にかかる状況(2021年8月)

学校医からは、新型コロナウイルスのために本来行われるべき救急搬送が実施困難な状況にあること、現在の新型コロナウイルスの感染状況から考えると、1学期より学校教育活動全般について活動度を抑える必要があるとの助言があった。学校医の意見や近隣の病院受け入れ状況(厚労省HPを参照)などの情報を教職員に共有しつつ、部活中に心肺停止や熱中症等の救急搬送の可能性の高い部活動(特に運動部)においては活動の制限を行った。

### 3.10 保健所の業務逼迫を受けて2学期の対応

8月下旬には、都内新規感染者数の急増により、保健所の業務が逼迫し、保健所による陽性者及び濃厚接触者の積極的疫学調査の実施が困難な状態であった。そこで、文科省から、生徒本人が濃厚接触者及びPCR検査陽性になった場合、保健所の連絡を待たずに、行動履歴調査を行い、学校で学級閉鎖、学年・学校閉鎖の判断をするようにとの通知<sup>6)</sup>があった。それを受けて、管理職とともに2学期開始に向けて「保健所の積極的疫学調査の縮小に伴う学校で陽性者が出た時の対応」についてのガイドラインの作成を行った。

同時期に、文科省から学校で体調不良になった高校

生・教職員を対象に学校で抗原検査を実施することができるとの通知<sup>6)</sup>があったが、本校においては、耳鼻咽喉科の学会等から学校での検査実施の問題点が指摘されている<sup>7)</sup>ことを受けて、学校医とも相談し、検査者の感染リスクや検査会場の確保等の準備が整わず実施を見合わせることにした。

### 3.11 夏休み部活中の濃厚接触者対応

8月下旬、運動部に参加していた生徒の家庭から陽性者が出た。本人は濃厚接触者となり、事実がわかり次第すみやかに下校したが、マスクなしで接触プレーのある活動をしていたため、学校医とも相談し、「必要な感染予防策なしで15分以上の接触があったもの」を特定し、本人のPCR検査の結果が出るまで、部活動は自粛とした。保健所の業務逼迫の影響でPCR検査の実施まで1週間以上かかったが、顧問より健康観察や手洗い消毒などの基本的感染症予防の継続等、濃厚接触者生徒の結果が確定するまで、万一のことを想定して同居家族以外の濃厚接触者を増やさないよう指導をした。

## 4 年中行事や部活動における感染症対策

### 4.1 健康診断

#### 4.1.1 定期健康診断集中日

4月下旬に1日かけて、身体計測(身長・体重・座高・胸囲)、視力検査、聴力検査(中学2年・高校2年を除く)、X線検査(高1のみ)と耳鼻咽喉科・眼科・歯科検診を一斉に実施している。例年は異学年・他クラスなど混在した状態で実施している。例年は待ち時間が長く密になりやすい状況であった。それらの課題を解消するために、今年度は生徒保健委員とともに感染症対策として以下のことを行った。

- ① クラスごとに順番に廻る方法に変更した。
- ② 検査会場および移動で生徒同士の接触がなるべく少なくするように導線に配慮した。
- ③ 会場の出入口に手指消毒薬を設置した。
- ④ 身体計測の座高・胸囲を検査項目から削除し、一人/日当たりの検査時間を短縮した。
- ⑤ 検査待ち時間が長い耳鼻科健診で看護師の人数を増やし、検査スピードを上げた。
- ⑥ 眼科検診は自分で眼瞼を下げさせた。
- ⑦ 視力検査会場を大きな会場に変更し、待ち列を短くするよう、保健委員が誘導した。
- ⑧ 視力検査の遮眼子をやめて、黒画用紙(A4を八等分にカット)に変更、使い捨てにした。
- ⑨ 待ち時間対策のために、本など時間つぶしがで

きるものの持ち歩きを勧めた。

これらの工夫をした結果、例年以上に静かでスムーズに、密を避けた健診を実施することができた。

#### 4.1.2 内科健診・臨時健康診断

学校医による内科健診・臨時健康診断は例年通り授業時間中に保健室で実施したが、今年度は授業担当者の協力のもと、小グループ(10人程度)ごとに保健室へ移動するようにした。その結果、待合場所で待つ生徒数を減らすことができ、密にならずにスムーズに実施できた。

### 4.2 宿泊を伴う校外活動

#### 4.2.1 校外学習

5月中旬に中学1年から高校2年の5学年が一斉に宿泊を伴う校外学習においては、4月当初から以下の点に留意して、各学年担当者が旅行業者、宿泊施設、バス会社等と十分な打合せを行い、感染症対策を講じた内容等を検討していた<sup>8)</sup>。

- ・参加2週間前からの健康観察を徹底する。
- ・移動の車内換気、マスク着用、会話を控えめにする。
- ・宿泊先の感染状況により延期・中止の判断をする。
- ・実施上の感染症対策や宿泊先で体調不良になった際の対応の検討をする。
- ・保護者・生徒に感染症対策やキャンセル料発生の可能性について説明し、理解を得る。

実施の準備に伴い、学校から持参する救急鞆には例年通りの応急手当セットに加えて、非接触性体温計、マスク予備、手指消毒薬など感染症対策用備品を加えた形で準備を行った。また、生徒自身にも、体温計、替えのマスク、マスクを捨てる袋、それぞれが使用しやすい手指消毒薬等の感染症対策用品を持参することとした。

ところが4月下旬、感染再拡大や従来株より1.3~1.5倍の感染力があるデルタ株(変異株)の出現により、実施の可否が危ぶまれる状況となった。そこで学校医に相談したところ、実施の方向で準備しつつも感染状況によっては延期・中止にすることも視野に入れて検討をするよう、助言があった。ゴールデンウィーク明けには、デルタ株の若年層への感染が明らかとなり、校外学習は中学1年、中学3年、高校1年は7月上旬に、高2は2022年3月に延期となった。

#### 4.2.2 部活動による夏季行事(夏合宿)

夏季休業中に行われる部活動の夏合宿は、5月下旬ごろから各部活動で宿泊先の感染状況を注意しつつ、実施の可否、実施時期の見直し、宿泊数の低減、卒業生コーチ参加の見合わせなどの対策を講じた。保健主事は「宿泊を伴う学習に参加する際への保護者への感染症対策の

お願い」及び「期間中の体調不良者への対応フロー」の作成をし、職場全体に共有した。これらを元に、各部活動で保護者会などを実施して、合宿実施の理解を図った。しかしながら、6月下旬から徐々に感染再拡大の予兆がみられ、7月9日に緊急事態宣言が発令となり、ほとんどの部活動は夏合宿が中止となった。高校2年生にとっては2年連続、そして部活動最高学年での夏合宿がなくなる事態となった。

### 4.3 三大行事(音楽祭・体育祭・文化祭)

#### 4.3.1 三大行事の位置づけ

本校における音楽祭・体育祭・文化祭は、生徒実行委員会(音楽祭実行委員会・体育祭実行委員会・文化祭実行委員会)をはじめ、生徒が主体となって企画・運営をしている。これらの活動は教科学習を補完する学習の機会となっており、本校にとってはなくてはならない教育活動の一つである。昨年度は見送り、もしくは縮小せざるを得なかった三大行事であるが、今年度は感染状況等を踏まえ、実施に向けて実行委員会の生徒とも、感染症対策や開催方法等について検討を行った。

#### 4.3.2 音楽祭実施に向けての検討

6月に実施される音楽祭(合唱祭)の練習は早い学年では4月下旬から開始される。同時期に、新型コロナウイルスは従来株より感染力が強いデルタ株に置き換わりつつあり、生徒部は、生徒主体で行う放課後の合唱練習が集団感染リスクの高い活動となり得ると判断し、練習を見合わせた。それと並行して、合唱練習を実現可能にするための感染症対策<sup>9)10)11)</sup>について検討を行った。まずは5月7日に教室内での合唱練習者数及び練習会場の換気方法を確定するために、高校3年生の協力のもと学校薬剤師によるCO<sub>2</sub>濃度のモニタリングをした(6.2に後述)。また、合唱練習をする際の感染症対策の資料を作成し、音楽祭実行委員会に共有し、集団感染のリスクとその対策について周知した。音楽祭実行委員会は全校生徒対象に感染症対策啓蒙ビデオを作成し配信を行い、合唱練習に向けて準備をしていた。

しかしながら、合唱中のクラスター発生の報告<sup>12)13)14)</sup>や合唱団の定期演奏会の延期<sup>15)</sup>等の事例、及びデルタ株の感染力や若年者の重症化・死亡例の報道などが相継ぎ、加えて全校生徒を対象に実施した「コロナ×健康」アンケート(7.11に後述)で一定数の生徒が合唱練習に対する不安を抱えていることも考慮し、学校として合唱活動は控えた方がよいと判断し、今年度の音楽祭は中止とした。

### 4.3.3 音楽科による音楽会

学校行事の音楽祭の中止を受けて、音楽科では生徒の合唱活動の継承を最優先に考え、音楽の授業時間で合唱練習を実施し、7月16日に音楽科主催の音楽会の開催を試みた。対象は中学生及び高1年高2年の音楽選択生徒及び高3有志、音楽部の生徒で、体育館で実施した。舞台上では2mのソーシャルディスタンスを保ち、飛沫感染予防を行った。鑑賞スペースは1m間隔に格子状に設置し、各所に扇風機を置いて熱中症予防と換気ができるような環境を整えた。また、中学生が高校生の合唱の様子を鑑賞できるようなタイムスケジュールにし、観客は1学年1時間に入れ替え制とした。音楽祭の経験がない中学1年・2年にとっては、舞台上で歌う経験と高学年の合唱の様子を鑑賞できる場となった。

### 4.3.4 体育祭

8月25日、国立感染症研究所は10代以下の感染者数が増加傾向にあるとして、学校での感染防止対策を徹底と、体育祭など密になりやすい行事は延期や中止を検討するよう求めた。生徒部では9月下旬の実施は集団感染のリスクが高いと判断し、体育祭の実施を10月中旬に延期とした。保健主事としては、企画運営をしている体育祭実行委員会の生徒に対して「NPO 法人日本 ECMOnet COVID-19 重症患者状況の集計」<sup>16)</sup>の重症者数データを参考に、医療逼迫に加担するようなことにならないよう接触しない競技変更も視野に入れ、感染症対策を検討するよう助言をした。実際は10月には東京都の新規感染者数も落ち着いてきており、競技種目の変更には至らなかったが、観戦場所での密を回避するために、中高別日開催や昼食時間を学年別に1時間ずつ設けて、競技会場内にいる人数の制限、会場各所に手指消毒薬の設置及び替えマスクの準備などを行うことができていた。その他、2週間前から体育祭実行委員による広報(メール配信)による検温・健康観察の実施の呼びかけ、及び体育祭当日登校時に体育祭実行委員による検温チェック(写真1)など健康管理の徹底し、感染源は持ち込まないことを担保した上で、接触する競技であってもマスクを外してもよい、とした。



写真1)体育祭実行委員生徒による体育祭当日朝の検温

その他、各競技についても感染症対策を体育祭実行委員が作成し、全校生徒に周知徹底をしていた。

実施に際しては、学校医や外部感染症専門家にも相談しつつ、実施の判断をした。

### 4.3.5 文化祭

2021度は10月29日～10月31日で文化祭を実施した。都内の感染状況次第では外部来場者はなしという選択肢も視野に入れつつ、基本的には外部来場者ありの方向で検討していた。10月には東京都の新規感染者数も落ち着いたため、午前午後完全入れ替え制で保護者及び招待客の外部入場者は可能という形で実施ができた。以下、文化祭関連の指導と対応について記述する。

#### ◆文化祭実行委員会

##### 「文化祭前検温・健康観察の徹底」

7月の国立感染症研究所の菅原民枝氏からの助言を受けて(5.2参照)、来場者に2週間前からの検温・健康観察を義務付け、当日来場時の受付にて提出を求めた。ここで健康管理ができたことにより、感染源対策の徹底と担保となった。来場者から提出された書類は、開催後2週間まで保健室で保管し、その後溶解処理をしている。

生徒の検温・健康観察においても同じく2週間前から文化祭実行委員による昼の放送にて検温の徹底及びアプリLEBERへの入力や基本的な感染対策の徹底を促す放送をかけ、生徒主体で感染予防の意識の向上を図る姿が見られた。

##### 「文化祭期間中の生徒の食事場所」

文化祭期間中は生徒の食事場所を図書スペース、武道館(高校3年食品班・喫茶班の食事スペース以外)に設け、学年別に決められた時間帯に各自のタイミングで食事をとるスタイルとした。各机には手拭き用ティッシュ、使用後テーブル拭きのための器材消毒薬・ペーパー

ータオルの設置をし、接触感染予防の対策を講じた。文化祭実行委員会は、後日感染者が出た際の資料として、同じ場所で食事した人の追跡ができるように入退場時の QR コードでの記録、及び、食事机の使用記録用紙を設置して管理した。

### ◆高校3年生特別班 「食品班・喫茶班」

高校3年生の特別班では例年世田谷保健所の食品衛生監視員や、大量調理を専門とする家庭科非常勤講師の歌津恵美氏の指導をもとに、調理した食品を生徒及び来場者に提供を行っている。WHO では新型コロナウイルスは 70℃以上の十分な加熱により死滅し、食品を介した感染をするエビデンスは現時点ではない<sup>17)</sup>と示しており、それを踏まえて、調理時の感染症対策に関しては、従来から実施している「文化祭における食品取扱に関するガイドライン～文化祭中の食品衛生管理について～」をもとに健康管理や調理・衛生指導を行うことで実施は可能であると判断した。

食品班では、生徒が来客者の食事時間と場所の把握のために予約システムを構築し、QR コードによる入退出管理を徹底して行っていた。当初は食事場面での飛沫感染予防として各机にアクリル板の設置などの提案があったが、アクリル板が空気の流れを遮断し逆に換気しにくくなること、また食事後のアクリル板の消毒等が懸念材料であった。



写真 2) 食品班の感染症対策を講じた食事スペース

感染症専門医に対策について助言を求めたところ、個々の机の間隔をあける、食事の際の黙食を徹底させることなどに重点を置いた感染症対策をしたほうが現実的であることと、それよりも使用した食器は可燃ごみで統一をし、分別の際の接触感染リスクを下げた方が有効とのアドバイスがあった。それを受けて、例年のプラ

スチック皿などを紙製の可燃で捨てられるものに変更した。

喫茶班においては、食事スペースのゆったりとした雰囲気や、お客様にゆっくりしてもらうことに重きを置いた企画運営を想定していたので、テーブルごとの距離を2m程あけること、テーブルでグループごとに向き合うような配置にする代わりにアクリル板の設置をし、マスクを外した際には黙食に協力をしてもらうよう徹底させた。生徒は黙食を促すための方策として、机上の QR コードからリーフレットやアレルギー食材、今までの活動の様子などを待ち時間に見ることができるとサイトを立ち上げ、お客様同士の会話をなるべく少なくする工夫を講じていた。また完全予約で入室後30分総入れ替え制にして、客が入れ替わるごとに共用部分の消毒をするなど感染症対策を徹底するよう指導を行った。

### 「ステージ班・緑日班」

屋外ではあるがステージやアトラクションなどで多くの人が集う場所であるステージ班・緑日班には、来客者へのマスク着用、ソーシャルディスタンスの徹底するよう指導した。また仲間による声援を行いたいとの要望があったので、人との間を 2m 以上の距離を保ち、声出しの人たちのエリアを作る、などで生徒の思いと感染症対策の両立を図った。両班とも、班員スタッフが来客者に対して、一定の距離を置くよう声掛けするなどを感染予防の啓蒙を図っていた。

### 「演劇班・コント班」

演劇班・コント班は舞台演出の為、屋内会場に暗幕を張り光が入らない形での上演を希望していた。会場は 24 時間換気システムロスナイが設置されていることも考慮し、収容人数と換気の方法とタイミングなどを学校薬剤師からの指導(6.4 に後述)を得つつ、検討を行った。当日は、常に CO<sub>2</sub>濃度計で計測し、数値が上がってきたら換気をするなどの感染症対策を講じていた。

### ◆中夜祭実行委員

高校2年生が文化祭二日目の夕方から、ステージを組んで企画をする中夜祭がある。2021 年度は「体育館にてプロジェクションマッピングを使用した演出をしたい、また、きれいに見せるため、光が入らないようにカーテンを閉じたい」との要望があった。体育館には換気システムロスナイは設置されておらず、換気がしにくい環境の為、感染対策と生徒のやりたいことの両立はなかなか困難な状況であると思われた。そこで、体育館の構造と収容人数のバランスを検討し、どのようにしたら換気がスムーズにできるか実証実験をするように助言を

した。中夜祭実行委員会の生徒は、カーテンをしながら空気の流れ道を作る工夫や、足元の通気口や出入口対角線 2 方向を全開にする等、換気ができるような構造を検討した。また、実施時間も例年より 30 分程度短くし、開演時間は 1 時間程度とした。当日、顧問による CO<sub>2</sub>濃度の測定をおこなった結果、時間とともに数値の上昇は見られたものの終了時には 900ppm 程度に収まっていた。

#### 4.4 音楽部における感染症対策

##### 4.4.1 6 月部活動再開に向けて

マスクを外して息を吐く活動になる音楽部(吹奏楽部)は、昨年度から全日本吹奏楽連盟のガイドライン<sup>18)</sup>等をふまえた感染症対策を行い、慎重に活動していたが、5 月の感染再拡大及び変異株の出現により、現状の対策が十分であるのか不安を感じ、活動を停止していた。そこで、吹奏楽の感染症対策に詳しい感染症専門医師である国立国際医療センターの塚田訓久氏に依頼し、変異株の最新情報と対策について助言をもらった。具体的には基本的な感染症対策は同じであるが、従来株より患者から出るウイルス量が多く、今まで以上に換気が重要であること、また、各自が感染しない努力と無症候の感染者が練習に参加する確率を下げる努力の継続が重要であると助言があった。部員からは各自の楽器の特性に応じた対策や個人練習や合奏練習場面での対策等の質問があった。それに対して、状況や場面に応じた対策の仕方などより具体的な助言をいただいたうえで、6 月上旬より部活動再開をした。

##### 4.4.2 定期演奏会に向けて

音楽部は例年有観客で定期演奏会を実施している。2020 年は中止となったが、2021 年度は塚田氏による助言をうけつつ、9 月実現に向けて、実施会場や実施方法、観客の参加の是非について検討をした。

塚田氏からは有観客にする場合には、不織布マスク着用、家族間の距離を開けて着席、ロビーでの食事禁止、花束やプレゼント預かりなし、終了後は速やかにホールを離れる、等の対応を検討しつつ、演奏会時点での首都圏の医療機関の受入状況も踏まえ最終判断として、「無観客となる可能性が十分にある」という前提で準備をすること、との助言があった。9 月中旬には感染状況や医療機関の受け入れ状況も落ち着いていたが、無観客で録画を動画配信という形で実施となった。

## 5 生徒保健委員会の取り組み

### 5.1 定期健康診断集中日にかかわる活動

従来から保健委員会の生徒は事前の会場設営、身体計測や視力検査の記録係、片付け・会場復帰として活動をしていたが、今年度はそれらに加え、手指消毒の勧めや検査会場内の会場誘導(待ち時間中の密回避)等、感染症対策を行った。

### 5.2 新型コロナウイルス感染症対策の講演会の実施

今年度は保健委員会の活動の一環として、新型コロナウイルス感染症対策特別委員会(自治会委員会)共催で国立感染症研究所の菅原民枝氏を講師としてお招きし、新型コロナウイルスに関する勉強会を実施した。

日 時:7 月 7 日(水)13 時 30 分～

場 所:本校 50 周年記念会館

参加対象:全校生徒、教職員

実施形態:対面・オンライン併用

参 加 者:保健委員のほか、文化祭実行委員や中夜祭実行委員、高校 3 年の特別班の生徒等、会場 25 名、オンライン 35 名(教職員も含む)計 55 名が参加。

参加者から事前質問を受け付けたところ、新型コロナウイルス感染症の基本的な質問や、日常の感染症対策、2 学期の学校行事のに向けた感染症対策など具体的な質問が多く挙げられていた。

新型コロナウイルスについて
・SARS や MARS、COVID-19 の最大の違いは何か
・なぜコロナは感染力が強いのか
・なぜ新型コロナにかかると肺炎になるのか?
・コロナのこれからはどうなっていくのか。今後、マスクを外して元の生活が送れるようになるか?
・世界的に感染状況のピークは?
・いつこの段階は終わるのか。いつまでこのような感染症対策を続けなければならないか
・変異株とは何なのか。変異株と従来型の違い
・変異株は永遠に出続けるのか
・今後、空気感染するようになることも考えられるのか、またその場合はどうやって防げばいいのか
・何をすることで感染するのか、どうすれば感染しないのか、やはり手洗いうがいに尽きるのか。
感染症対策について
・ワクチンの仕組みや副作用、今後の未来観について

・マスクの種類と性能の関係
・国の対策は不十分だと思いますか。
・今後の政府の感染症対策の方向性はどうすべきか。
・昼食時に喋るとどのくらい危険性が上がるのか。
・感染症対策のために各クラスや部活が運営する上で注意しなければならないことやその優先順位も具体的に教えてほしい。
・イベントのガイドラインなどは適切なのか、制限しすぎなのか。
・毎時 5000 m <sup>3</sup> の吸入能力のある換気設備を使用し、かつサーキュレーターを用い空気循環を促進した場合、単純計算で 5000÷30=166(人)の収容が可能になる。観客、スタッフを合わせ 160 人の収容は可能か。
・十分な換気設備が整っている場合、かつ食事や会話がないう状態では映画館の座席並みの密集、密接下での演劇、コント公演の観賞は可能か。
・一般客同士の座席間を 1m 確保した際、同伴入場者(同居家族)でも 1m の間隔をあける必要があるか。
・文化祭など外部から不特定多数の人が来るようなものでは主催者側がどのように感染症対策をすべきか。また確実に感染症対策してもらえるような分かりやすく、効率のよい方法があるのか。

菅原氏からは、感染症の歴史や感染症に対する 3 つの視点(最新情報を"自分で"収集、基本的な感染症の対策の徹底、差別をしない)をはじめ、事前質問に回答する形で新型コロナウイルスの基礎知識と、集団感染を高めるリスク、実際の集団感染事例及び真に効果のある現実的な感染症対策等、多岐にわたる内容の話があった。

講演会終了後も多くの生徒が残り、特に文化祭開催に向けた具体的な質問を活発にしていた。菅原氏からは文化祭で不特定多数の客を入れるための方策として、主催者側も来客側も 2 週間の健康観察の実施が大きな担保になるとの助言があった。学校行事開催に向けた感染症専門家との対話は、公衆衛生的な観点から感染症対策を考えるよい機会となっていた。

後日、保健委員が保健委員会会報に講演会の内容を書き起こし、全校生徒に配信もしている。また当日の講演動画を限定公開で全校生徒に共有し、感染症対策の理解啓発を図った。

### 5.3 体育祭での手指消毒薬の準備

今年度の体育祭は十分な感染症対策を講じたうえで実施することとなった。体育祭実行委員会より協力要請が

あり、保健委員会としてはスタンド式手指消毒薬の準備や消毒薬の補充などのサポートを行った。

### 5.4 文化祭前の検温・健康観察の協力

勉強会での感染症専門家の助言を受けて、文化祭実行委員会は 2 週間前からの検温・健康観察の徹底を全校生徒に呼びかけを行った。保健委員会では文化祭実行委員会の要請を受けて、各 HR 教室に非接触型体温計を配置し、当日検温し忘れて登校してしまった生徒への検温を促すなど、感染症対策の啓発を行った。

## 6 学校薬剤師との連携・協働

### 6.1 概要

新型コロナウイルス感染リスクの回避として「換気の悪い密閉空間」の改善がある。CO<sub>2</sub>濃度は換気状況の目安となり、数値として可視化できる。そこで、学校薬剤師と連携・協働し、教室の換気及び学校行事の際に換気について、検査及び助言・指導をした。

### 6.2 音楽祭合唱練習時の練習場所(5月7日)

音楽祭実施に向けて前述の通り、放課後の練習時の感染リスクに懸念があった。そこで、合唱練習に使用する場所の近隣への騒音と空気の検査を行った。HR 教室では人との距離を 2m 間隔とし、人数制限を行い、同じ方向を見て、「窓を閉めたまま」「常時換気をした状態」などで実証実験を行った。教室には 15 人程度、窓開けをした状態で、マナーを守った状態での練習であれば、合唱をしても可能との結果となった。

### 6.3 50周年記念会館(7月7日)

保健委員会の講演会場であった 50 周年記念会館で測定した。会場収容率の約 1/2 の人数が参加していたが、複数の窓開けができており、ほとんど外気と変わらない(400ppm 前後)CO<sub>2</sub>濃度であった。

### 6.4 オープンスペース(以下 OS)(9月13日)

文化祭時の高校 3 年特別班の活動場所となった OS のロスナイの換気能力の実証実験をした。窓開けなし、160 人全員で毎時 5000 m<sup>3</sup>の吸入能力のある換気設備を使用した状態で計測を行った。その結果、時間の経過とともに CO<sub>2</sub>濃度は上がるものの、900ppm 程度で推移しており、ロスナイの換気能力があることがわかった。今回の結果を踏まえて、文化祭当日の会場内客数の上限や、換気の方法・タイミングを検討するよう助言・指導した。

学校薬剤師からは生徒自身が感染症対策を検討する

うえて抑えてほしいポイントについて「接触感染の可視化」「より効果的な換気」「可視化でわかるマスクの効果」「感染を防ぐ行動パターン」の4つの動画の紹介があった。

## 6.5 文化祭中のHR教室及びOS(10月30日)

観客24名+演者10名、20分の講演の教室で検査を行った。入室時にはすでにCO<sub>2</sub>濃度が高い状態で公演中は遮音のため窓に目張りをし、換気ができていない状態であった。そこで、客がいない時間にしっかりと換気をするよう指導があった。

また、高校3年「コント班」及び「演劇班」が公演中のOSのCO<sub>2</sub>濃度を測ったところ、どちらの班も1000ppmを超えることはなかった。また、舞台裏の休憩スペースなどは顧問が定期的に見守りし、適宜、換気をしていた。

## 6.6 HR教室(11月24日)

CO<sub>2</sub>濃度計を教室設置型にした際の配置場所の検証と、アラームを鳴らす数値の検討を行った。新調した計器は薬剤師が通常検査に使用している測定器とほぼ数値が同値であった。設置場所は生徒との距離が50cm以上離れた場所である黒板横もしくは下に常時設置が望ましいということがわかった。アラームは1000ppmに設定し、警告音がなったらすぐに換気をするとした。また換気方法は対角線窓を10~20cm開けることを基本にしつつ、外気温や風の状態などによって、扇風機などを使って排気をするなどの工夫が必要であることを改めて指導いただいた。また換気だけでなく、室温・湿度を下げすぎることによる健康被害についても助言があった。

# 7 生徒に向けたアンケート

## 7.1 「コロナ×健康」アンケートの実施

コロナ禍により生徒は「我慢を強いられる」ことが増えている。そこで、生徒の心身に起こっている変調をできる限り見逃さず、子ども達の心に寄り添うことを目的とし、健康状態と学校生活、特に学校行事に対する思いや不安についてのアンケートを2回実施した。質問項目や実施時期については、校内の教員プロジェクト研究メンバーと検討した。

第1回目はゴールデンウィークあけでデルタ株の感染が増加してきた5月9日に「コロナ×健康アンケート～音楽祭に向けて～」、第2回目は第5派の影響を受けて医療逼迫などの報道も多かった8月22日に「コロナ×健康アンケート～夏休み編～」を、全校生徒を対象にGoogleFormsを使用したアンケートを実施した(無記名、任意)。有効回答数は第1回目245名(回答率28.3%)、第2回目227名(回答率26.4%)で全校生徒の1/4の生

徒から回答があった。

アンケート結果では、登下校や昼食時の感染不安や音楽祭の実施や練習、2学期の授業開始や体育祭の実施に向けた不安が多く挙げられた。一方、対面授業の実施を望む声や学校行事を止めてほしくないという意見も多く見られた。アンケート集計結果は全教職員にも共有し、学校行事実施や授業実施に向けた検討の際の参考資料とした。全校生徒に対しては、感染症対策についての資料とともに配信した。

## 7.2 ワクチン接種率のアンケートについて

2021年5月31日に12歳以上の小児へのワクチン接種が承認され、同年6月1日から適用となり、徐々にワクチン接種や副反応による公欠・出席停止の報告も散見された。生徒・保護者、教職員の中からもワクチン接種率を調べたらどうかとの意見が挙がった。学校医に相談したところ、様々な考え方や捉え方、基礎疾患などで接種できない人、ワクチン接種を望まない人等がいる中で調査をするのはやめたほうがよい、との助言があった。また、教員の中にもワクチン接種率を教育活動の判断にもちいることはどうかとの反対意見、そしてワクチン接種率の調査は差別や偏見・同調圧力に繋がる可能性があるとの意見や、9月9日付けの『中学校でワクチン接種有無を生徒に挙手させ調査 奈良 五條』教育新聞などの報道も含めて、本校においては、ワクチンに関する内容のアンケートは差し控えることとした。

# 8 考察

2021年度は2020年度で明らかとなった新型コロナウイルスへの基本的な感染症対策を踏まえて、対面による教育活動の再開をしたものの、感染力が強く若年者の感染増加が顕著なデルタ株の出現により、生徒の学びを止めずどこまで教育活動を実施するのか判断に迷う一年となった。本校においては学校行事の企画運営を代々の生徒実行委員会が引き継ぐことを伝統とし、ヒドゥンカリキュラムとして大事にしているところでもあり、2年連続の中止・縮小によってその伝承が途切れてしまうことは生徒・教職員とも危機感をもっていった。

保健主事としては、生徒のやりたいことと感染症対策は時に両立が難しそうに思えることもあり、悩むことが多かったが、学校医や学校薬剤師等の学校三師に、具体的な場面で相談しつつ、生徒との対話を絶やさず、妥協点を見出すことを心がけてきた。

また、今年度は2名の感染症専門家(感染症専門医師

及び公衆衛生専門家)と密に連絡を取って、感染源・感染経路への対策の考え方や具体的な対策方法について生徒へ直接指導をしていただく機会を設けた。

三人行事の生徒実行委員会は、自分たちのやりたいことの実現のために、時には、実現性が低い紙面上の感染症対策を作成してくることもあったが、学校三師や感染症専門家のアドバイスを受け、教員と対話をしながら折り合いをつけており、公衆衛生的な感染症対策の実際を、実践を通して学ぶ機会となったと思われる。

音楽祭については音楽祭実行委員会主催での開催には至らなかったが、感染症対策を講じつつ、音楽科主催で合唱の経験をえられる機会を設けられたことは、次年度以降の音楽祭継続に大きな原動力になったと思われる。

体育祭・文化祭においても、不確定要素が多い中での準備は想像以上に負担が大きな活動だったと容易に想像できるが、感染状況の経過をみつつ、各活動場所や活動内容に応じた感染症対策を講じつつ、実施の検討を行ったことは、コロナ禍だからできたことでもあり、実りが大きかったのではないかと推測している。

生徒に向けたアンケートについては、無記名での実施としたので、生徒の率直な気持ちを知るうえで重要な資料となった。感染症に対する不安を抱えている生徒、逆に感染症対策より授業や活動を優先してほしいという生徒などが混在していることが明らかとなった。これらの情報を生徒及び教職員で共有することで、感染症に対する受け止め方の違いを知るきっかけとなり、不安に思う人が隣にいることを念頭に自分たちがやりたいことを実現していくことの学びにもなったと思われる。

これらの状況を踏まえて、日常の教育活動を始め、音楽会、体育祭・文化祭を開催したことは、生徒自身の満足度も高く、学校の活気に繋がったと感じている。一方、検温・LEBER 入力率が上がらない、行事中に密になる場面があった、普段から生徒同士の距離が近い等、多くの反省点もみられたが、その意味を検討することで次年度以降に生かす材料として、受け継いでいきたいところである。

これらの経験は新型コロナウイルスへの対応だけでなく、再び起こるであろう新興感染症の発生時において、科学的に考え判断する際に役に立つことと考える。不確実性の中、危機管理をしながら対応していくこと自体が、教科書にはない学びの糧になったと考える。

最後に、この間、他校の先生方との情報交換を密に行い、実際の学校保健活動の様子や資料などの共有させていただき、非常に参考になった。未曾有の事態での対応は手探りの連続であったが、他校の様子を知れたことは大き

な心の支えとなったことを記録として残しておきたい。

### 【謝辞】

本校の学校保健活動の実践に際しては、本校学校医の大須賀勝氏、学校薬剤師の大澤千代子氏をはじめ、国立感染症研究所の菅原民枝氏、国立国際感染症医療センターの塚田訓久氏、世田谷区保健所の食品監査員、本校家庭科非常勤講師の歌津恵美氏のご助言・ご指導とご協力をいただきました。皆様に心から感謝の気持ちとお礼を申し上げたく、謝辞にかえさせていただきます。

### 【参考文献】

1. 「東京都での新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行」(2020 年 1~5 月)(IASR Vol. 41 p146-147: 2020 年 8 月号)、国立感染症研究所  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/2502-idsc/iasr-in/9818-486d01.html>
2. 「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の実施状況に関する報告書」、内閣官房、令和 3 年 10 月  
[https://corona.go.jp/news/pdf/houkoku\\_r031008.pdf](https://corona.go.jp/news/pdf/houkoku_r031008.pdf)
3. 加藤志保他「コロナ禍の学校図書館-電子図書館、郵送貸出、データベース等の取り組み」筑波大学駒場論集 60 集、2020 年 3 月
4. 早川和彦他「新型コロナウイルス感染症拡大への生徒部の対応」筑波大学駒場論集 60 集、2020 年 3 月
5. 「学校で児童生徒等や教職員の新型コロナウイルスの感染が確認された場合の対応ガイドラインの送付について」、文部科学省、令和 3 年 8 月 27 日  
<https://www.mext.go.jp/content/000133781.pdf>
6. 「小学校、中学校及び高等学校等における新学年に向けた新型コロナウイルス感染症対策の徹底等について」文部科学省、令和 3 年 8 月 20 日  
[https://www.mext.go.jp/content/20210820-mxt\\_kouhou01-000007004\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210820-mxt_kouhou01-000007004_1.pdf)
7. 「高校等における新型コロナウイルス抗原定性検査キットの活用について」日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会・日本臨床耳鼻咽喉科医会、令和 3 年 7 月  
[http://www.jibika.or.jp/members/iinkaikara/pdf/gak\\_kouhoken\\_katsuyou\\_r3.pdf](http://www.jibika.or.jp/members/iinkaikara/pdf/gak_kouhoken_katsuyou_r3.pdf)
8. 「旅行関連業における新型コロナウイルス対応ガイドラインに基づく国内修学旅行の手引き(第4版)」一般社団法人日本旅行業協会、令和 3 年 1 月 29 日  
[https://www.jata-net.or.jp/virus/pdf/2020\\_domestic\\_choolexcursionguide.pdf](https://www.jata-net.or.jp/virus/pdf/2020_domestic_choolexcursionguide.pdf)
9. 「学校において合唱等を行う場面での新型コロナウイルス対策の徹底について(通知)」令和 2 年 12 月 10 日  
[https://www.mext.go.jp/content/20201210-mxt\\_kouh](https://www.mext.go.jp/content/20201210-mxt_kouh)

ou01-000004520\_01.pdf

10. 「合唱活動における飛沫実証実験」の報告書新日本  
空調株式会社のクリーンルーム、令和2年12月8日

<https://jcanet.or.jp/news/himatsu-JCAhoukoku1208s.pdf>

11. 「合唱練習時の新型コロナウイルス感染防止策」、全  
日本合唱連盟、令和2年11月26日

<https://jcanet.or.jp/JCAchorustaisaku-ver2.pdf>

12. フェースシールド着用、換気したのに...「合唱クラスター」  
で7人感染、読売新聞オンライン、2020年08月21日

<https://www.yomiuri.co.jp/national/20200821-OYT1T50154/>

13. 新型コロナ 中学校生徒20人 合唱コンクールで集団  
感染か 兵庫 2020年11月26日

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20201126/k10012733201000.html>

14. 埼玉の市立中でクラスター、生徒ら35人感染...合唱  
練習時のマスク徹底されず、読売新聞オンライン、2020  
年12月11日

<https://www.yomiuri.co.jp/national/20201206-OYT1T50130/>

15. 久留米児童合唱団 | 久留米児童合唱団ホームペー  
ジ [kuruji.jp](http://kuruji.jp)、2021年4月11日

16. NPO 法人日本 ECMOnet COVID-19 重症患者状  
況の集計

[https://note.com/verify\\_corona\\_ka/n/nb80afc3cffb9#Rod5u](https://note.com/verify_corona_ka/n/nb80afc3cffb9#Rod5u)

17. Q&A: Food Safety and Nutrition related to  
COVID-19, WHO (World Health Organization)、14  
August 2020

<https://www.who.int/emergencies/diseases/novel-coronavirus-2019/question-and-answers-hub/q-a-detail/food-safety-and-nutrition>

18. 吹奏楽の活動及び演奏会等における新型コロナウイ  
ルス感染拡大予防ガイドライン、全日本吹奏楽連盟、2020  
年9月2日

<http://www.ajba.or.jp/guideline.pdf>

参考資料) 1年間の学校保健活動の流れ

4/13(月)	【全校】二酸化炭素濃度計の運用(生徒日直が毎朝教室設置)
4/16(金)	【高 3】食品・喫茶班生徒への食品衛生に関する説明会(感染症対策も含む)
4/17(土)	【全校】「新型コロナウイルス予防対策における出席停止措置について」の配信
4/22(木)	【全校】定期健康診断集中日(検査会場、検査方法、検査順の見直し)
4/23(金)	【教育実習】教員実習事前指導での本校の感染症対策の指導
4/28(金) 他 2 回	【全校】内科健診(クラス待機等の工夫)
4/28(金)	◆学校医に相談 校外学習実施についてのアドバイスあり
4/30(金)	筑波大学附属学校教育局より「宿泊を伴う行事については、緊急事態宣言が発令中の地域ないしまん延防止重点措置の適用地域が出発地・訪問地・宿泊地に含まれる旅程である場合、延期又は中止とする。」と通知
5/06(木)	5/17 の週の校外学習延期の発表
5/06(木)	近隣学校の陽性者生徒との接触あり、その対応
5/07(金)	◆学校薬剤師と連携① 音楽祭練習モニタリング(主に二酸化炭素濃度測定と換気)
5/07(金)	【高 1】保護者会にて感染症対策の説明
5/09(日)	【全校生徒】「コロナ×健康アンケート」全校生徒に実施(GoogleForms)
5/12(水)	【教員】「コロナ×健康アンケート」の結果の共有
5/13(木)	【全校生徒】「コロナ×健康アンケート」結果と感染予防対策を全校生徒に配信
5/13(木)	●保健所食品衛生監視員による指導 【高 3】世田谷保健所訪問
5/14(金)	【高 3】食品衛生講習会の実施
5/14(金)	【教員】教員有志による音楽祭実施に向けた検討会(茶話会)の実施
5/17(月)	【音楽祭実行委員会】「音楽祭練習における感染予防対策」の資料作成、音楽祭実行委員会に提案
5/20(木)	音楽祭中止の発表
5/20(木) -21(金)	【高 3】模擬文化祭での衛生及び感染予防対策指導

5/24(月)	●感染症専門医によるアドバイス 音楽部部活再開、定期演奏会に向けて、
5/25(火)	【高 3】食品・喫茶の消毒薬の効果検証(化学室)実験(生徒とともに)
5/31(月)	【教員】宿泊行事(合宿・校外学習)における感染症対策(「宿泊を伴う学習に参加する際の保護者へのお願い、及び、期間中の体調不良者への対応フロー」の作成)
6/04(金)	【高校】自治会・有志生徒による新型コロナウイルス感染症対策委員会の発足
6/04(金)	高 3 特別班による朝の検温・手洗い協力の声かけ及び昼食時の黙食協力の校内放送の実施
6/12(土)	●専門医からのアドバイス 【高 3】食品班の感染症対策について
6/15(火)	【教職員】見玉龍彦氏による新型コロナウイルス感染症勉強会第 2 弾
6/16(水)	【高 3】ヘルプ講習会にて衛生・感染予防対策の実施
6/17~	【高 3】縁日班エリア内感染症対策指導
7/03(金)	【中 1・中 3】校外学習前、実施に向けて感染症対策の検討
7/07(水)	【全校】生徒保健委員会及び新型コロナウイルス感染症対策委員会主催の勉強会(国立感染症研究所 菅原民枝氏)
7/07(水)	◆学校薬剤師と連携② 熱中症対策と教室の換気の調査
7/16(金)	【全校】音楽会での感染症対策及び熱中症対策の指導
7/19(月)	【教職員】コロナ禍における救命救急講習会 →9/4へ延期→未実施
7/30(金)	筑波大学附属学校教育局主催「コロナ最前線オンライン研修会」川口敦史氏、種市尋宙氏
8/17(火)	◆学校医に相談 第 5 波による部活動の見直し及び 2 学期からの学校活動についてのアドバイス。厚生労働省 HP「病院の稼働状況」参照しつつ、検討。
8/20(金)	学校で濃厚接触者を特定、保護者への電話連絡、PCR 検査の実施(会場づくり・検査の立会等も含む)などを行う可能性あり。(保健所の業務逼迫を受けて、保健所の連絡を待たずに学校が実施)

8/20(金)	【体育祭実行委員会】体育祭における感染症対策の指導
8/20(金)	●感染症専門医へ相談。音楽部定期演奏会の実施に向けて
8/21(土)	【部活動】運動部同居家族発熱ありで部活動に参加。 ◆学校医に相談 一緒に活動した部員の活動停止(該当生徒PCR検査結果が明らかになるまで)。
8/22(日)	【全校生徒】コロナ×健康アンケート夏休み編の実施
8/24(火)	【教員】コロナ×健康アンケート夏休み編の結果報告
8/27(金)	文科省「学校で児童生徒等や教職員の新型コロナウイルスの感染が確認された場合の対応ガイドラインの送付について(20210827付)」への対応の検討。
8/30(月)	【全校生徒】コロナ×健康アンケート夏休み編の結果及び「検温はなぜするのか?」「LEBER 入力を習慣化させるためには(生徒のアイデア集)」の配信
2 学期	【全校】学校行事前の検温・健康観察の強化(LEBER における管理強化)
9 月～	【全校】手洗対策・弱酸性泡石鹸の設置 新型コロナウイルス感染症対策委員会による LEVER 入力率のチェック(毎日)及び、検温の勧め、生徒による昼の校内放送開始 【教務】濃厚接触者・感染不安のための欠席者等へのオンライン学習保障開始
9/10(金)	【高 3】特別班全体の感染症対策の助言
9/12(日)	●感染症専門医とともに音楽部定期演奏会への感染症対策のチェック
9/13(月)	◆学校薬剤師と連携③ 文化祭に向けた OS 換気(ロスナイ)検査
9/13(月)	【生徒】手洗い促進のための施策の相談(行動経済学、ナッジ理論の活用)
9/27(月)	生徒より LEVER の代替案の提示。Google フォームによる検温入力システムの発案。
9/29(水)	●感染症専門家へ今後の感染状況の見通し、体育祭・文化祭に向けた相談
10/04(月)	◆学校医に相談 体育祭実施に向けた助言
10/06(水)	◆学校医に相談 体育祭前健康診断及び文化祭における感染症対策の情報共有及び助言

10/11(月)	【保健委員会】体実との連携した体育祭の感染症対策(スタンド式手指消毒薬の消毒薬の補充など)
7/7 ~ 11/1	【文化祭実行委員会】文化祭での感染症対策(食事会場、中夜祭、食品・喫茶を始めとする高3特別班)及び文化祭実行委員会への感染症対策のアドバイス
10/20(水)	【保健委員会】保健委員会による検温活動 HR に非接触型体温計の設置
10/22(金)	◆学校医に相談 文化祭の感染症対策
10/30(土)	◆学校薬剤師と連携④ 文化祭デコの空気の検査
11/18(木)	◆学校医に相談 風邪症状増加への対応
11/24(水)	◆学校薬剤師と連携⑤ 新しい二酸化炭素濃度計の設置場所等の検証
11/30(月)	ロードレース大会実施に向けた感染対策の検討
3 学期 2022 年 1 月 ~	東京都内のオミクロン株の感染急拡大と第 6 波を受けて、3 学期以降の対応を検討
1/12(月)	◆学校医に相談 ロードレース大会実施について検討
1 月中旬	◆学校医に相談 陽性者及び学級・学年閉鎖の対応 【生徒・教職員】 陽性者症状が発熱・鼻水・咽頭痛。体調不良時は積極的に休むように推奨。 【教務】濃厚接触者・感染不安のための欠席者等へのオンライン学習保障開始
1 月～2 月上旬	◆学校医に相談 入試における感染症対策について 受験生の健康観察及び当日の健康状態の確認、会場の換気(CO2濃度計でのモニタリング)、手洗い・手指消毒の徹底等。